

認証評価基準の適合状況の全学的な自己点検・評価結果（令和7年12月役員会承認）

1. 施設及び設備

評価項目 1－1 ①校地、校舎の面積

②校舎等施設の整備状況等

判断基準：教育研究活動を展開する上で必要な施設を法令に基づき整備しているか

【担当組織】 施設委員会	
自己点検・評価結果	令和7年度においては自己点検・評価を実施しない。 本評価項目については自己点検・評価の実施頻度を「概ね3年に1度」としており、令和6年度に「判断基準を満たしている」と評価しているため、令和7年度の自己点検・評価は行わない。
改善を要する点及び対応策	
前年度から継続中の課題及び対応状況	【課題】 なし

評価項目 1－2 ①実験・実習工場、農場の整備状況

判断基準：法令が定める実習施設等が設置されているか

【担当組織】 施設委員会	
自己点検・評価結果	令和7年度においては自己点検・評価を実施しない。 本評価項目については自己点検・評価の実施頻度を「概ね3年に1度」としており、令和6年度に「判断基準を満たしている」と評価しているため、令和7年度の自己点検・評価は行わない。
改善を要する点及び対応策	
前年度から継続中の課題及び対応状況	【課題】 なし

評価項目 1－3 ①耐震化等の安全性の確保の状況

判断基準：施設における安全性について、配慮しているか

【担当組織】施設委員会	
自己点検・評価結果	令和7年度においては自己点検・評価を実施しない。 本評価項目については自己点検・評価の実施頻度を「概ね3年に1度」としており、令和6年度に「判断基準を満たしている」と評価しているため、令和7年度の自己点検・評価は行わない。
改善を要する点及び対応策	
前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 更なる向上が期待される点 老朽化が進む学外施設（学生寮、教職員宿舎）について、PFI事業の活用も含め、あり方・整備方法の検討を行っていく必要がある。</p> <p>【令和7年度対応状況】 老朽化が進む学外施設（学生寮、職員宿舎）については、国立大学法人施設整備費補助金では措置されにくく、PFI事業の活用も含め、あり方・整備手法について引き続き民間業者と検討を進めた。 その結果、特に老朽化が進んでいる西陣宿舎については廃止することとし、今後は学内調整及び文部科学省と事前相談の上、敷地の定期借地権設定を念頭に置いて、アドバイザリー業務委託契約を締結して計画を進めていく。</p>

【経営企画室】	
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	<p>【課題への評価結果】</p> <p><input type="checkbox"/>対応済 <input checked="" type="checkbox"/>対応中 <input type="checkbox"/>検討中 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>慎重に検討を進めた結果、特に老朽化が進んでいる西陣宿舎について廃止し、定期借地権設定を念頭に置いたアドバイザリー業務委託契約による利活用の計画を進めたことは評価できる。 他の学外施設（学生寮、職員宿舎）についても、あり方・整備方法について引き続き検討を進めていただきたい。</p>

評価項目1-4 ①ICT環境の整備・活用状況

判断基準：教育研究活動を展開する上で必要なICT環境を整備し、それが有効に活用されているか

【担当組織】情報基盤センター	
自己点検・評価結果	判断基準の指標として、文部科学省が毎年実施する学術情報基盤実態調査を用い、同規模大学と比較し、大学認証評価の基準を満たすか判断することとした。

	この調査（令和6年度実施）におけるICT環境と活用の項目のうち8項目について、他大学の実施状況と比較して平均以上に整備・実施されており、総合的に判断し、教育研究活動を展開する上で必要なICT環境を整備し、それが有効に活用されていることから、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び 対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<p>■ 判断基準を満たしている。</p> <p>□ 判断基準を満たしていない。</p> <p><u>○以下の点については更なる向上が期待される。</u></p> <p>学内のWi-Fi環境について整備を進めているが、学生アンケート等では一部の場所において繋がりにくいという意見が上がっている。</p> <p>デジタルキャンパス推進のためにも、さらに学内Wi-Fi環境を強化することが望ましい。</p>

評価項目1-5 ①図書等の整備・活用状況

判断基準：大学組織の一部としての図書館において、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、有効に活用されているか

【担当組織】 附属図書館	
自己点検・評価結果	附属図書館運営委員会において、文部科学省が毎年実施している学術情報基盤実態調査における調査項目をもとに附属図書館の整備・活用状況について検証した結果、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、有効に活用されているため、基準を満たしている。
改善を要する点及び 対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<p>■ 判断基準を満たしている。</p> <p>□ 判断基準を満たしていない。</p>

評価項目1-6 ①自主的学習環境の整備・利用状況

判断基準：自習室、グループ討議室、情報機器室、教室等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか

【担当組織】施設委員会	
自己点検・評価結果	<p>令和6年度は、これまでに整備を行ってきた附属図書館等の自学自習スペースに加えて、センターホール1階も共通スペースを自習・談話にも利用できるように環境を整えた。</p> <p>また、規則の改定を行い、東4号館や15号館の部屋を新たに共同利用スペースの対象とするなど、スペースの再配置と有効活用を行った。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 更なる向上が期待される点</p> <p>自主的学習環境を含む教育研究スペースについて、スペースの再配置と有効活用を図る必要がある。</p> <p>【令和7年度対応状況】</p> <p>令和4年度から導入された研究室・実験室へのスペースチャージ制度で拠出された不要スペースについて、自習・談話スペース等他の用途に活用している他、令和5年度の図書館改修の際は「多文化、多言語、みんなのカフェ」がコンセプトのコミュニケーション空間「Mcafé」及び自習室を大学会館2階に移設・整備した。</p> <p>また、令和6年度には、センターホール改修の際に、1階に自習・談話スペースにも利用できる共通スペースを整備した他、共同利用スペース利用要項の改定を行い、新たに東4号館や15号館の部屋を対象諸室とするなど、スペースの再配置と有効活用を図った。</p> <p>令和7年度には、2号館南棟1階に自習・談話スペースを整備する計画を進めている。</p>

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	<p>【課題への評価結果】</p> <p><input type="checkbox"/> 対応済 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>令和4年度にスペースチャージ制度が導入された後、返却されたスペースを自習室や共同プロジェクトのスペースに利用する等のスペースの再配置を毎年行い、さらに、令和6年度に共同利用スペース利用要項を改定し共同利用スペースを増やす等スペースの再配置と有効活用を進めている。</p> <p>引き続き、再配置や有効活用できるスペースを整備いただきたい。</p>

評価項目 1－7 ①実験等に用いる教育研究設備の、必要性を踏まえた整備状況

判断基準：教育研究活動を展開する上で必要な設備を法令に基づき整備しているか

【 担 当 組 織 】 財務委員会	
自己点検・評価結果	設備マスターplanに定める設備の選定においては、導入設備の調査項目として、「授業での利用状況」や「使用不能になった場合の影響の程度・範囲」を設定しており、当該項目を通じて教育研究上の必要性を評価している。 令和7年度に更新・新規導入設備計画を更新する際も上記評価結果を勘案したうえで計画策定を行っている。 以上のことから、当該評価項目を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし

【 経 営 企 画 室 】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 1－8 ①実験等に用いる教育研究設備の、老朽化の度合いを踏まえた整備状況

判断基準：設備における安全性について、配慮しているか

【 担 当 組 織 】 財務委員会	
自己点検・評価結果	設備マスターplanに定める設備の選定において、導入設備の調査項目として、既存設備の「動作状況」や「購入年度」を設定しており、当該項目を通じて既存設備の老朽化度合いを評価している。 令和7年度に更新設備計画を更新する際も上記評価結果を勘案したうえで計画策定を行っている。 以上のことから、当該評価項目を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし

【 経 営 企 画 室 】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 1－9 ①実験等に用いる教育研究設備の、学生の利用頻度を踏まえた整備・利用状況

**判断基準：教育設備等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、
効果的に利用されているか**

【 担 当 組 織 】 財務委員会	
自己点検・評価結果	設備マスタープランに定める設備の選定において、導入設備の調査項目として、「利用学生数」や「共同利用の可否」、「年間稼働時間」を設定しており、当該項目を通じて設備の利用状況を評価している。 令和7年度に更新設備計画を更新する際も上記評価結果を勘案したうえで計画策定を行っている。 以上のことから、当該評価項目を満たしている。
改善を要する点及び 対応策	なし

【 経 営 企 画 室 】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

2. 学生支援

評価項目 2－1 ①学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言の利用状況

②卒業・修了生の進路状況

判断基準：学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制を整備しているか

【 担 当 組 織 】 学生支援センター	
自己点検・評価結果	<p>保健管理センター運営委員会（令和7年5月29日～6月4日開催）において、学生の保健管理センター利用実績（ケガの応急処置、診察、健康診断結果についての相談等の日常生活支援）について確認を行い、次年度事業計画内容の充実を図っている。</p> <p>学生相談室においては、悩み事を抱えた学生から見た時の相談のしやすさの改善に向け、相談内容に応じた適切な相談場所を示した相談先一覧表を作成し、令和7年3月の学域長等会議で連絡した後に、全教員及び学生へ周知した。現在、この一覧表により相談対応にあたっている。</p> <p>また、学生支援センターキャリア支援室会議（令和7年5月26日開催）において、前年度の卒業・修了者の進路状況及び就職支援・キャリア教育事業の実施状況について確認し、留学生のキャリア相談に対する需要の増加やオンラインでの相談受付等、社会情勢の変化に対応した事業を行っていることを確認した。</p>
改善を要する点及び対応策	なし

【 経 営 企 画 室 】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 2－2 ①課外活動支援の実施状況

②学生支援センター課外活動支援部会による学生からの意見聴取の状況

判断基準：学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援を行っているか

【担当組織】 学生支援センター	
自己点検・評価結果	学生支援センター学生生活部会（令和7年9月10日～16日開催）において、課外活動団体に配分された予算の執行状況について確認を行い、次年度支援内容の充実を図っている。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目2－3 ①外国人留学生への支援の状況

②外国人留学生アンケート

判断基準：留学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っているか

【担当組織】 国際センター	
自己点検・評価結果	<p>①奨学金支援や住居紹介、留学生チューターの配置等により留学生への適切な生活支援を実施している。また、入学前の経済的不安軽減のために、合格時に授業料免除判定結果及び奨学金審査結果を通知している。</p> <p>②留学生の生活状況等の実態を把握するため、留学生アンケートを実施し、得られた情報を基に、必要に応じて支援事業の見直しを図っている。次回は令和8年1月に実施予定。</p>
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目2－4 ①アクセシビリティ・コミュニケーション支援センターによる支援の状況

判断基準：障害のある学生その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っているか

<p>【担当組織】 学生支援センター</p>	
自己点検・評価結果	<p>アクセシビリティ・コミュニケーション支援センターに、専任教員（教授）1名、カウンセラー4名、コーディネーター1名、事務職員1名を配置し、各課程・専攻の教員と共同して障害のある学生等に対し合理的配慮を始め必要と考えられる支援を行う体制を整備し、支援を行っている。</p> <p>合理的配慮提供学生に対しては定期的に面談を行い、現状確認及び合理的配慮の提供継続の意思確認を行っており、入学前の面談や本学退学後の就職支援等の面談も必要に応じて行っている。</p> <p>毎月（第4水曜日）定期開催しているアクセシビリティ・コミュニケーション支援センターミーティング（議長：同センター長）において、支援学生の現況、同センター相談実績について、専任教員、担当カウンセラー、非常勤医師（精神科医）、関係職員（学務課、学生支援・社会連携課）で共有し、課題等について、意見交換や課題解決の検討等を行った。</p> <p>上記のほか、支援体制の一つとして、ピア・チューター制度を運用し、「学生による学生の支援」も行っている。</p>
改善を要する点及び対応策	なし

<p>【経営企画室】</p>	
自己点検・評価結果	<p>■ 判断基準を満たしている。</p> <p>□ 判断基準を満たしていない。</p>

評価項目2－5 ①学生に対する経済支援の状況

判断基準：学生に対する経済面での援助を行っているか

<p>【担当組織】 学生支援センター</p>	
自己点検・評価結果	学生支援センター奨学支援部会（令和7年7月7日開催）において、前年度の入学料・授業料免除等に係る経済支援の実績について確認し、必要な支援を行っていると判断した。
改善を要する点及び対応策	なし

<p>【経営企画室】</p>	
自己点検・評価結果	<p>■ 判断基準を満たしている。</p> <p>□ 判断基準を満たしていない。</p>

3. 学生の受入

評価項目 3－1 ①アドミッションポリシー

判断基準：学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方を明示しているか

【担当組織】 アドミッションセンター	
自己点検・評価結果	<p>アドミッションポリシーは、令和4年度から始まる第4期中期目標期間に向けたディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの見直しに合わせて令和3年度末に改訂を行い、その後は毎年度必要に応じて改訂を行うこととしている。</p> <p>令和8年度（令和7年度実施）の学部・大学院の各入学者選抜に係るアドミッションポリシーは、各課程・専攻に検討、確認を依頼したのち、アドミッションセンター運営委員会（令和6年10月16日開催）において審議を行い、</p> <ul style="list-style-type: none">・「求める学生像」として、入学前に学修しておくことが期待される能力・適性（学習成果）を記載していること・「入学者選抜の基本方針」において、選抜ごとの評価方法（試験内容）と測る能力を記載していること <p>を確認した。</p> <p>また、その後、教育研究評議会（令和7年3月27日開催）において、令和7年度入学者向けのディプロマポリシー、カリキュラムポリシーとともに審議され、最終決定した。</p>
改善を要する点及び対応策	令和9年度（令和8年度実施）のアドミッションポリシーについては、アドミッションセンター運営委員会（令和7年7月16日開催）において原案を作成し、現在、各課程・専攻に検討を依頼している。

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 3－2 ①入学試験の実施体制

②入学試験の実施に関する教職員からの意見聴取結果

判断基準：学生受入方針に沿って、受入方法を採用しており、実施体制により公正に実施しているか

<p>【担当組織】 アドミッションセンター</p>	
自己点検・評価結果	<p>① 入試種別ごとに、学長を本部長とする入試実施本部を設置し、アドミッションポリシーに基づいた入学者選抜方法により、公正に入学試験が実施されていることを確認している。また、学部・大学院とも、選抜毎に本部長を含めた入試実施本部の役割や構成等を記載した実施要領や監督者要領の作成に加え、面接において公平かつ公正に行えるよう、評価基準に盛り込むべき事項・技能や質問禁止事項を記載した「面接にあたっての注意事項」を作成している。</p> <p>② 令和6年度実施の学部入試を担当した試験監督者等から寄せられた意見は、アドミッションセンター入試実施室(学部入試実施部門)会議(令和7年4月2日開催)において、検討を行った。</p> <p>検討結果(意見に対する対応策等)については、令和7年度実施の入試実施体制・運営に反映されることが確認されるとともに、事務情報ポータルを通じて、令和7年4月11日付で全教職員に報告した。</p>
改善を要する点及び対応策	<p>今年度実施する入試においても、実施上の問題点や不都合が生じた場合には即時対応するとともに、次年度の実施にあたっての対応策をアドミッションセンター入試実施室において検証する予定である。</p> <p>また、引き続き入試業務に従事した教職員から意見を聴取し、実施室において検討を行う予定である。</p>

<p>【経営企画室】</p>	
自己点検・評価結果	<p>■ 判断基準を満たしている。</p> <p>□ 判断基準を満たしていない。</p>

評価項目3－3 ①入学試験実施結果

②入学後の修学状況

判断基準：学生受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組を行っており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか

<p>【担当組織】 アドミッションセンター</p>	
自己点検・評価結果	<p>① 学部一般選抜では、入試ミスの防止や問題の完成度をより高めることを目的として、出題責任者に入試結果(受験者及び合格者それぞれの最高点、最低点、平均点等)の情報を提供し、試験問題の分析と次年度の出題担当者等への引継ぎ事項の作成を依頼している。</p> <p>令和7年度入試(令和6年度実施)に係る引継ぎ事項は、一般選抜</p>

	<p>出題担当者会議（令和7年4月25日開催）において、今年度（令和7年度実施）の出題者へ情報を提供した。</p> <p>② 本学ポートフォリオシステムを活用して、学部入学後1年以内の休退学者の確認を行い、学生受入方針に沿った学生の受入が実際に出来ているかどうか、追跡・検証を行った。</p> <p>アドミッションセンター運営委員会（令和7年5月21日開催）において、各入試区分の過去7年間の入学後1年以内の退学者等の状況や、過去4年間の1年次終了時点での成績不振者の割合を検証し、学生受入方針に沿った学生の受入が行われているか確認を行った。</p>
改善を要する点及び対応策	<p>次年度以降も同様に、出題責任者に対し、試験問題の分析及び引き継ぎ事項の作成を依頼し入試問題の改善に役立てるとともに、入学後1年以内の休退学者の状況や成績不振者の割合等を検証する予定である。</p>

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p>

評価項目3-4 ①入学定員充足率

判断基準：実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか

【担当組織】 アドミッションセンター	
自己点検・評価結果	<p>アドミッションセンターにおいて、学部・大学院の入学者選抜毎に募集人員に対して入学予定者数に過不足が生じていないか入学手続状況を確認するとともに、欠員が生じた際には追加合格対象者への連絡を行っている。</p> <p>令和6年度に実施した令和7年度入試より、辞退者の多かった学部の私費外国人留学生入試について、入学手続期間を前倒しするとともに、入学定員の取扱いに関する見直しを行った。</p> <p>これらの結果、令和7年度の学部及び博士前期課程の入学者については、大幅な超過や欠員は生じていない。</p> <p>また、博士後期課程においては、入学定員60名のところ、令和4年度は64名の入学者があったものの、令和3年度は52名、令和5年度は51名、令和6年度は48名と、定員を充足できていない状態が続いている。</p>

	<p>そのため、毎年、アドミッションセンターから博士後期課程の各専攻に定員確保に向けた対応を依頼していたが、令和6年度は、学部や修士の早い段階から「博士後期課程への進学」という進路を意識づけることも重要と判断し、学部の各課程及び修士の各専攻にも博士後期課程の定員充足にむけた効果的な取組や意見等を聴取することとした。</p> <p>各課程・専攻の取組みや意見等は、アドミッションセンター運営委員会（令和6年11月13日開催）において共有するなど、大学全体で定員充足に向けた取組みを実施しているところである。</p> <p>その結果、令和7年度は、春入学者が前年度から14名増の41名、秋入学者は23名の合計64名となり、定員60名を充足することができた。</p> <p>これら、学部・大学院の入学者選抜実施状況については、教育研究評議会及び経営協議会において報告し、実入学者数が、入学定員に対して適正な数となっていることを確認している。</p>
改善を要する点及び対応策	<p>大学院博士後期課程においては、引き続き博士後期課程の各専攻だけではなく、各課程及び博士前期課程の各専攻に対しても入学定員確保に注力するよう依頼する予定である。</p> <p>また、内部進学者等への授業料免除についても引き続きご配慮願いたい。</p>
前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 更なる向上が期待される点</p> <p>大学院博士後期課程においては定員を充足できていないため、適正化を図る必要がある。</p> <p>【令和7年度対応状況】</p> <p>定員を充足できていない大学院博士後期課程においては、博士後期課程の各専攻だけではなく、各課程及び博士前期課程の各専攻に対しても、入学定員確保に注力するよう依頼を行った。</p> <p>その結果、令和7年度春入学は前年度から14名増の41名であり、令和7年度秋入学の23名を加えた結果、64名となり、定員の60名を充足することができた。</p> <p>また、令和8年度入試の第Ⅰ期募集（一般・社会人）には、26名の出願があり、うち24名が合格した（合格者は昨年度より3名増）。</p>

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p>

**前年度から継続中の
課題の対応状況に対
する自己点検・評価
結果**

【課題への評価結果】

対応済 対応中 検討中 その他

定員を充足できていない大学院博士後期課程において、長期的に入学定員確保の対応を行った結果、令和7年度は定員を充足することができた。

今後も定員を充足することができるよう、引き続き取り組んでいただきたい。

4. 教育課程と学習成果

評価項目 4-1 ①ディプロマポリシー

判断基準：学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・ディプロマポリシーに、以下の各項目に係る記述が含まれていること。 ①学生の進路先等社会における顕在・潜在ニーズ ②学生の学習の目標 ③どのような学習成果を上げれば、学位を授与するのか明示していること
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	■ 判断基準を満たしている。 □ 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-2 ①カリキュラムポリシー

判断基準：教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、

- ①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、
③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・カリキュラムポリシーに判断基準の①～③の各項目に係る記述が含まれていること。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	■ 判断基準を満たしている。 □ 判断基準を満たしていない。

評価項目 4－3 ①カリキュラムポリシー

②ディプロマポリシー

判断基準：教育課程方針が学位授与方針と整合性を有しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・カリキュラムポリシーがディプロマポリシーに定める期待する能力を学生が獲得できるものとなっていること。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4－4 ①カリキュラムツリー

②科目ナンバリング

判断基準：教育課程の編成が、体系性を有しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・カリキュラムポリシーに基づき、授業科目が配置され、教育プログラムの体系性が確保されていること。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4－5 ①授業科目の内容

判断基準：授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっているか

【 担 当 組 織 】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>以下を点検した結果、基準を満たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業科目の所要時間数（1単位の授業科目が45時間）が京都工芸繊維大学通則・京都工芸繊維大学大学院学則に記載されていること。 授業科目の内容について、シラバスにて、45時間の学修時間が必要であると確認できること。
改善を要する点及び対応策	なし
前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 更なる向上が期待される点</p> <p>認証評価機関である独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の評価基準が令和8年度より変更となる。現段階では案であるが、分析項目に係る根拠資料に「シラバスの記載内容を組織的にチェックする体制を示す資料」が追加されている。</p> <p>令和8年度以降に受審する認証評価に対応するため、シラバスの記載内容を組織的にチェックする体制の構築の検討が必要である。</p> <p>【令和7年度対応状況】</p> <p>チェック体制について、総合教育センター教育評価・FD室会議にて現在審議を進めており、令和7年度中に体制を決定する。</p>

【 経 営 企 画 室 】	
自己点検・評価結果	<p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p>
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	<p>【課題への評価結果】</p> <p><input type="checkbox"/> 対応済 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>今年度中の体制決定に向けて、引き続き対応をお願いしたい。</p>

評価項目4－6 ①京都工芸繊維大学通則

②京都工芸繊維大学大学院学則

判断基準：他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位

認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めているか

【 担 当 組 織 】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・入学前の他大学等における既修得単位認定の規定が法令に従い定められていること。
改善を要する点及び対応策	なし

【 経 営 企 画 室 】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4－7 ①京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修規則
②京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科における研究指導計画書に関する申合せ
③大学院学生の指導体制

判断基準：大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしているか

【 担 当 組 織 】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・研究指導の基本方針や考え方が定められていること。 ・指導体制を整備し、それに基づく指導が実施されていること。 ・複数教員による指導体制、研究テーマ決定に対する指導、年間研究指導計画の作成・活用、中間発表会の開催、他大学や産業界との連携、TA・RAとしての活動を通じた教育・研究能力の育成等、教育の目的や研究指導の基本方針等に照らして、研究指導に対する取組が行われていること。
改善を要する点及び対応策	なし

【 経 営 企 画 室 】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

	<p>○以下の点については更なる向上が期待される。</p> <p>令和4年10月の大学設置基準の改正に伴い必須となった学生の指導補助者(TA等)への研修について、他大学と比較して実施体制・内容に不十分な箇所が見受けられるため、さらに充実させる必要がある。</p>
--	---

評価項目4-8 ①学年暦

判断基準：1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>以下を点検した結果、基準を満たしている。</p> <p>・1年間の授業期間が、定期試験を含め35週確保されていること。</p>
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<p>■ 判断基準を満たしている。</p> <p>□ 判断基準を満たしていない。</p>

評価項目4-9 ①学年暦

判断基準：各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>以下を点検した結果、基準を満たしている。</p> <p>・各授業科目が学期単位で実施されていること。</p>
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<p>■ 判断基準を満たしている。</p> <p>□ 判断基準を満たしていない。</p>

評価項目 4-10 ①授業形態、学習指導法、授業の方法及び内容の学生への周知状況

判断基準：適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 <ul style="list-style-type: none">・シラバスに「授業名」「担当教員名」「授業の目的・概要」「学習目標」「授業計画」「履修条件」「授業時間外学習（予習・復習等）の具体的な内容や目安となる時間」「教科書・参考書」「成績評価の方法及び基準」が全科目、全項目記入されていること。・シラバスをウェブサイトにて周知していること。・大学院の授業について、研究指導に相当する授業科目が設定されている場合、修了要件必要最低単位に含めていないこと。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-11 ①教育上主要と認める授業科目の担当教員の状況

判断基準：教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 <ul style="list-style-type: none">・専門教育科目の必修科目は、専任の教授又は准教授が原則として担当していること。・実際に授業を担当しない場合であっても専任の教授又は准教授が授業の内容、実施、成績に関して責任をもっていること。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-12 ①京都工芸繊維大学大学院学則

判断基準：大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間

**その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法
となっているか**

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・大学院において、夜間その他特定の時間に授業を行っている場合、法令に則した実施をしていること。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-13 ①履修相談への対応状況

判断基準：学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・ガイダンス、学習成果の状況の組織的把握と対応、学習計画の指導、基礎学力不足の学生指導、助言等が行われていること。 ・編入学や秋入学への配慮、修士（博士前期）課程教育との連携、国内外の他大学との単位互換、ダブル・ディグリー制度の導入等の取組が行われていること。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-14 ①数学サポートセンター、物理サポート室の活動状況

判断基準：学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・数学サポートセンター及び物理サポート室において学習相談等の学習支援が行われていること。
改善を要する点及び対応策	なし
【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-15 ①キャリア教育及びインターンシップ科目の実施状況

判断基準：社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・全学共通科目にキャリア教育及びインターンシップ科目等の実践的な教養科目を設置していること。
改善を要する点及び対応策	なし
【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-16 ①アクセシビリティ・コミュニケーション支援センターによる支援の状況

②外国人留学生への学習支援の状況

判断基準：障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えているか

【担当組織】 学生支援センター及び国際センター	
--------------------------------	--

自己点検・評価結果	<p>アクセシビリティ・コミュニケーション支援センターに、専任教員（教授）1名、カウンセラー4名、コーディネーター1名、事務職員1名を配置し、各課程・専攻の教員と共同して障害のある学生等に対し合理的配慮を始め必要と考えられる支援を行う体制を整備し、支援を行っている。</p> <p>合理的配慮提供学生に対しては定期的に面談を行い、現状確認及び合理的配慮の提供継続の意思確認を行っており、入学前の面談や本学退学後の就職支援等の面談も必要に応じて行っている。</p> <p>毎月（第4水曜日）定期開催しているアクセシビリティ・コミュニケーション支援センターミーティング（議長：同センター長）において、支援学生の現況、同センター相談実績について、専任教員、担当カウンセラー、非常勤医師（精神科医）、関係職員（学務課、学生支援・社会連携課）で共有し、課題等について、意見交換や課題解決の検討等を行った。</p> <p>上記のほか、支援体制の一つとして、ピア・チューター制度を運用し、「学生による学生の支援」も行っている。</p> <p>また、留学生については、可能な限り同じ課程・専攻に在籍する留学生チューターを配置することにより留学生への適切な学習支援を実施している。</p>
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<p>■ 判断基準を満たしている。</p>

評価項目4-17 ①京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則

②京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修規則

判断基準：成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習

成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定しているか

【担当組織】	総合教育センター
自己点検・評価結果	<p>以下を点検した結果、基準を満たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準の評語（S～F）の到達目標を考慮した判断基準を定めていること。

改善を要する点及び 対応策	なし
------------------	----

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	■ 判断基準を満たしている。 □ 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-18 ①履修要項

判断基準：成績評価基準を学生に周知しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・刊行物の配布、ウェブサイトにて成績評価基準を周知している こと。
改善を要する点及び 対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	■ 判断基準を満たしている。 □ 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-19 ①成績評価分布の確認状況

判断基準：成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に

行われていることについて、組織的に確認しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・成績評価分布の点検を教育評価・FD室で実施していること。 ・GPA制度の目的を周知していること。 ・京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻において は、共同教育課程が本学とチェンマイ大学を通じて一貫したもの になっていること。
改善を要する点及び 対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-20 ①京都工芸繊維大学の成績評価に対する異議申立て要項

②異議申立てへの対応状況

判断基準：成績に対する異議申立て制度を組織的に設けているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・異議申立ての手続きが周知されており、組織的に対応していること。 ・申立て内容や件数等対応状況を記録していること。 ・教員が成績評価の根拠資料を一定期間保管していること。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-21 ①京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則

②京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修規則

判断基準：大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件が組織的に策定され、大学設置基準の要件と整合性があること。 ・修業年限の特例措置を講じている場合は、規定を整備していること。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-22 ①学位論文に係る評価にあたっての基準

判断基準：大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文評価基準」という。）を組織として策定しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・京都工芸繊維大学学位規則及び教授会、学域長等会議議事要録において審査に係る手続き・評価基準を組織的に策定していること。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-23 ①履修要項

判断基準：策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・卒業（修了）要件を刊行物の配布やウェブサイトにて掲載していること。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-24 ①卒業（修了）認定の審議状況

②学位審査報告の審議状況

判断基準：卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して

組織的に実施しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・（学部）卒業要件を適用する手順通りに実施していること。 ・（大学院）修了判定及び学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び試験に関して、手順通りに実施していること。
改善を要する点及び対応策	なし
【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-25 ①標準修業年限内卒業（修了）率

②標準修業年限×1.5年内卒業（修了）率

③資格取得状況

判断基準：標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、

資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則した状況にあるか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、博士後期課程の「標準修業年限×1.5年」年内修了率が目安の70%を若干下回っていたが、学部及び博士前期課程は90%以上であり、大学等の目的及び学位授与方針に則した状況であるため基準を満たしている。 ・標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5年」
改善を要する点及び対応策	総合教育センター運営委員会（令和7年3月19日開催）にて修了率70%未満の専攻から現状報告と改善方策が示され、継続して対応に当たることを確認した。
前年度から継続中の課題及び対応状況	【課題】 更なる向上が期待される点 博士後期課程における標準修業年限×1.5年内修了率が70%未満となっている年度があり、適正化を図る必要がある。

	<p>【令和7年度対応状況】</p> <p>博士後期課程における標準修業年限×1.5年内修了率が70%未満となっている年度があり、令和4年度に総合教育センター運営委員会の博士教育WGにて検討したところ、70%未満となる傾向にあるのは一部の専攻であったことから、当該専攻でその分野の特性に応じた対応を検討することとした。</p> <p>総合教育センター運営委員会（令和7年3月19日開催）にて修了率70%未満の専攻から現状報告と改善方策が示され、継続して対応に当たることを確認した。</p>
--	---

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p>
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	<p>【課題への評価結果】</p> <p><input type="checkbox"/> 対応済 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>博士後期課程における標準修業年限×1.5年内修了率について、改善に向けた対応を行ってはいるが、70%未満となっている年度が続いているため、今後も引き続き対応をお願いしたい。</p>

評価項目4-26 ①卒業・修了生の進路状況

判断基準：就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則した状況にあるか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>以下を点検した結果、基準を満たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職率及び進学率の状況が本学の目的及びディプロマポリシーに即して妥当なものであること。 就職先、進学先の状況が、本学の目的及びディプロマポリシーに即して妥当なものであること。
改善を要する点及び対応策	なし

【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p>

評価項目 4-27 ①卒業生・修了生（予定者）アンケート結果

判断基準：卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 <ul style="list-style-type: none">卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果を踏まえて、学習成果を確認していること。学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査等により学習成果が上がっていることを確認していること。
改善を要する点及び対応策	なし
【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-28 ①卒業生・修了生調査協力者会議の意見聴取結果

判断基準：卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 <ul style="list-style-type: none">卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生からの意見聴取を踏まえて、ディプロマポリシーに則した学習成果が得られているか確認していること。
改善を要する点及び対応策	なし
【経営企画室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-29 ①就職先企業へのアンケート結果

判断基準：就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか

【 担 当 組 織 】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	以下を点検した結果、基準を満たしている。 ・就職先等の関係者からの意見聴取を踏まえて、学習成果を確認していること。
改善を要する点及び対応策	なし

【 経 営 企 画 室 】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。